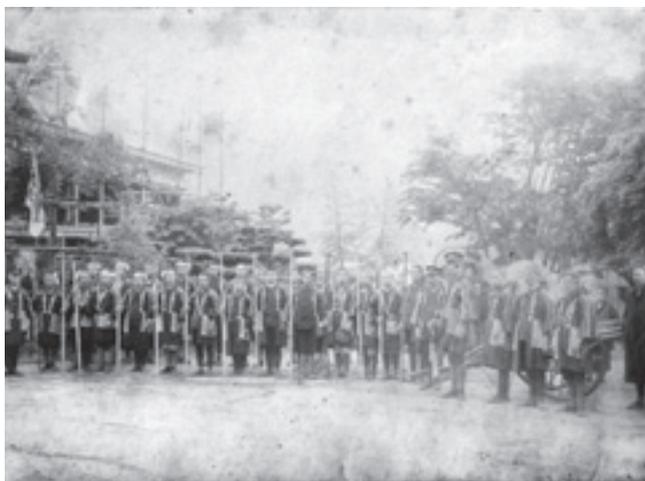


登別消防創設100周年



▲登別温泉で行われた消防訓練（大正4年）

市民の生命や財産を守る登別市の消防は、今年で創設から100周年を迎えました。

度重なる火災の発生や延焼に人びとが苦しむ中、まちを守るため立ち上がったのは、地域の若者を中心とする青年会でした。

今号では、100周年を迎えた消防の歩みを紹介します。



▲消防訓練で使用するポンプを移動させている様子（昭和25年）



▲水害現場に出動した消防車両と消防職員（昭和39年）

消防組織の始まり 登別温泉青年会消防部誕生

明治27年2月、国が消防組規則を制定し、各町村は公設の消防組織の設置を義務付けられました。

当時は、役場の人員や収入が少なく、防災・消防などの行政組織にまで手が回らず、人びとは火災の続発や延焼に苦しんでいました。

明治44年5月、登別温泉青年会が運動会の余興に、登別駅から木製ポンプを借りて放水訓練を披露しました。これが組織化のきっかけとなり、青年会の中に消防部が置かれました。

しかし、消防装備もなく、服装もまちまちで、住民に存在も知られなかつたため、寄付金を集め、大正2年に腕用ポンプを1台買い入れ、登別温泉青年会消防部が正式に発足しました。

これが、登別市における消防組織の始まりとなりました。

公設消防組織 幌別村消防組が発足



その後、幌別、幌別鉾山など地域ごとにも青年会や私設消防組織が結成されましたが、山火事の続発や来馬川ほか数力所が強風にあおられて延焼し、青年会をはじめ住民が出動したものの、100軒を焼失しました。



2013『登別消防創設100周年記念』 救える命があります!!

消防・救急フェスティバル

9月21日(土) 12時～15時・イオン北海道(株)登別店

消防車・救急車などの展示



消防隊が使用する資器材を積載した消防車や救急工作車、はしご自動車、救急隊が使用する資器材を積載した救急自動車に触れることができます。

また、はしご車のデモンストレーションもあります。

ミニレスキュー体験

未来の消防隊員、救助隊員を目指し、約10mのロープを渡るレスキュー体験。近年、複雑化かつ大規模化する救助出動に備え、市は水難救助隊や山岳救助隊を編成し、活動しています。



消防車による消火体験

消防車からの放水を体験することができます。



そのほかのイベント

- 小学1年生の消防車の絵画展示
- 幼稚園児のばん平くん塗り絵展示
- 登別ガス協同組合による発電機などの展示
- 住宅用火災警報器設置済みシール交付
- 登別消防100年の沿革パネル展示
- スーパーボール、ヨーヨーすくい
- 来場記念証の発行など



問い合わせ 消防署警備グループ (☎052551)

登別消防創設100周年に関する問い合わせは

消防本部
総務グループ

☎05 9611

FAX05 0259

Eメール: firedep@city.noboribetsu.lg.jp



▲7月30日(火)に行われた登別市総合防災訓練(放水訓練)

これを経験した人びとから、各区ごとの消防組織を一本化しようとの声が上ががり、大正7年4月、230人の組員と腕用ポンプ6台、ガソリンポンプ1台を配置し、公設消防組織の幌別村消防組が発足しました。

現在では、装備の改良や訓練などが行われ、消防能力も著しく向上。消防本部の下に設置された消防署、登別温泉・登別・鶯別各消防支署に加え、消防団と7つの消防分団が市民の安心・安全を守っているほか、『消防・救急フェスティバル』の開催、登別消防・火の用心キャラクタ―『ばん平くん』の誕生など、市民に親しまれる消防を目指しています。